

平成17年度 優秀論文表彰 受賞者紹介

測技協では、先端測量技術（旧APA）に掲載したすべての論文の中から年度ごとに優秀論文を選考し、表彰しています。
今般は2006年7月7日の測量調査技術発表会の中で行った表彰から、受賞者3名のプロフィールを紹介します。
先端測量技術は会員の皆様へ広く発表の機会を提供すると共に、皆様のご寄稿をお待ちしております。

会長賞

形状差分法による固定資産異動判別の自動化

小澤 淳真（おざわ あつまさ）

（共著）橋 菊生、笹川 正

株式会社パスコ

これまで、都市計画関連データ作成業務、航空機センシングデータを使った解析業務に従事
旅行

この度は、会長賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。関係者の皆様にはこの場を借りて心より御礼申し上げます。

近年の航空機センシング技術は著しい進歩を見せており、精度の高いデータを取得できるようになりました。これにより、地上で起こっている現象を様々な角度から解析することが可能となりました。本研究は、このような視点に立ち、航空機で観測されたデータを「建物変化箇所の抽出」に利用できないだろうかという試みではじめたものです。当初は試行錯誤の連続でした。使用するデータをいろいろ変えたり、何種類もの解析手法を試しても、全く結果が出ない状態が続き、非常に苦しい時期もありましたが、何とか生産体制に組み込めるまでに至りました。しかし、まだ課題も多く残っており、今後はこの部分の改良を進めていきたいと思っております。

奨励賞

高密度航空レーザ測量による震災時の道路土構造物点検の適用可能性

小林 浩（こばやし ひろし）

（共著）渋谷 研一

朝日航洋株式会社 空間情報事業本部 地図・コンサルタント事業部 計測・コンサルタント部 防災・環境グループ
平成14年までは地質コンサルティング業務に従事。平成15年より航空レーザ測量等を活用した防災コンサルティング業務に携わるようになり、現在に至る。

本論文の題材にした新潟県中越地震の際には、あまりの災害規模に当惑すると共に、あらためて空からの迅速な情報収集の有効性を再認識した。そんなところから本論文のアイデアが生まれ、渋谷氏がその豊富な計測経験から理論付けを行ったことで、論文としてまとめ上げることができた。

それにしても、震災直後は全社を挙げての災害対応となり、連日の深夜作業となって関係者の苦労は想像を絶するものがあつた。そんな皆の苦労の一部をこうして外部に評価される形で残すことができ、大変うれしく思う。

奨励賞

航空機レーザスキャナ取得データの圧縮・伝送方法の研究

寺岡 延尉（てらおか のぶやす）

（共著）笹川 正、浅沼 俊一、夏目 佳史

株式会社パスコ システム事業部 GISソリューション技術部 技術二課

データ圧縮アルゴリズム考案・ソフトウェア開発 / 携帯端末用アプリケーション開発 / GISを利用した地域特性分析
水泳

平成17年度優秀論文の受賞者に選ばれ、大変光栄に感じております。

今回発表した論文の目的は、航空機測量データの航空機から地上への伝送ですが、それを可能にする技術としての圧縮技術が研究の主題および成果であり、測量という分野からは縁遠い内容であることから、わかりやすく伝えることを念頭において発表致しました。

本研究の内容は、近年急速に関心が高まっている災害に関するものです。災害時の情報収集の方法の一つとして、航空測量が挙げられますが、短時間での解析が難しいことが欠点であるため、少しでも時間短縮が可能となるようデータの伝送という方法について研究を行いました。

この研究成果が災害時の情報収集においては災害対策そのものに少しでも役立つことができれば幸いです。最後に、本研究にご協力頂いた総務省および研究参加機関の皆様はこの場を借りて感謝の意を表します。どうもありがとうございました。

以上の論文は、先端測量技術89.90合併号に掲載されています。また、測技協HPからも閲覧できます。http://www.sokugikyo.or.jp/apa_no90.html
所属 業務経歴 趣味 受賞にあたって